

北の丸公園の利用の在り方に関する検討の背景・論点

1. 北の丸公園の利用に関する現状・課題

(1) 北の丸公園の現状

○ 北の丸公園は、森林公園として整備されてきたため、皇居の森と一体となった豊かな緑や自然環境が形成され、都心の自然を求めて訪れる利用者も多い。また、江戸時代に遡る歴史があり、文化財にも指定されている江戸城の遺構をはじめ、歴史を伝える要素も有している。さらに、日本武道館、科学技術館、国立近代美術館や国立公文書館といった文化的・公的施設もあり、これらの施設利用者等の様々な人々が、公園の多様な自然の風景や変化を楽しんでいる。

また、これまでの累次の閣議決定・閣議了解により、公園内の施設整備については限定的な運営がなされてきた。



公園外側からの皇居の森と一体となった樹林景観、歴史的景観



日本武道館



科学技術館



国立近代美術館分室（旧近衛師団司令部）



国立公文書館

(2) 北の丸公園の課題

○ 北の丸公園が直面する課題としては、以下のような点が挙げられる。

①施設の老朽化

- ・昭和44年(1969年)開園時の施設もあり、休憩施設、園路・階段・柵類等が劣化



舗装材の剥がれ



コケが付着した木製ベンチ

②樹木の管理不足・老木化

- ・樹木の成長や管理不足により、眺望・景観が阻害
- ・千鳥ヶ淵一帯を中心とした土手や公園外周部のサクラは、樹勢の衰退が進行



樹木の成長等による石垣の眺望の阻害



繁茂や眺望の阻害

③利用者目線での整備不足

- ・バリアフリー化や多言語表記の未整備
- ・情報発信の内容の不足



誘導案内板の劣化・多言語表記未整備



情報発信の内容不足

④公園内外との連携不足

- ・公園内外との連携の不足、回遊性の欠如

○ その他、考慮すべき動向としては、以下のような点が挙げられる。

⑤文化施設の動き

- ・科学技術館の耐震化の検討

2. 検討に際しての論点

論点1：歴史や経緯を踏まえ、北の丸公園にふさわしいあるべき姿・今後の利用の在り方とは何か。

- 皇居外苑の一部を形成するという特殊な性格を有すること、森林公園として保全されてきた都心の貴重な緑地であること、閣議決定・閣議了解に基づくこれまでの施設整備の経緯があること等を踏まえ、多くの来訪者に対して更なる魅力向上と活用を図る上で、国民に受け入れられる北の丸公園にふさわしいあるべき姿や今後の利用の在り方とは、どのようなものか。

論点2：今後の施設整備や利用を進める上で、どのような点に留意すべきか。

- 1(2)に掲げた課題解決に向けた取組の方向性として、例えば以下のようなものが考えられるのではないか。
 - ①公園内外の多様な主体による連携（主に課題④、⑤に対応）
 - ②ゾーニングの導入（主に課題④、⑤に対応）
 - ③森林公園としての魅力向上、新たな価値の創出（主に課題①、②に対応）
 - ④魅力の見える化、情報発信（主に課題③に対応）
- 民間のアイデアや資金を活用した整備の手法や利用動線など、北の丸公園の適切な施設整備や利用を推進するための考え方として、どのようなものが考えられるか。

<参考：各国民公園（皇居外苑、京都御苑、新宿御苑）の現状>

1. 概要

- 皇居外苑、京都御苑及び新宿御苑は、いずれも旧皇室苑地という由緒を持ち、それぞれに品格と伝統を有する国民公園として、幅広い人々に親しまれている。

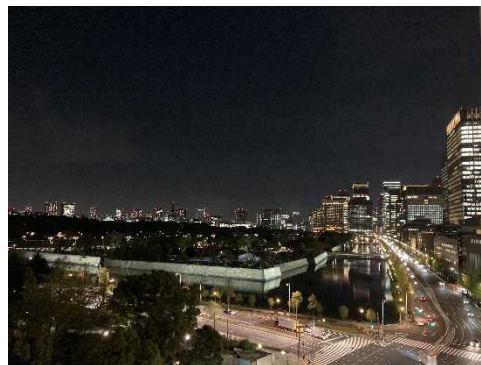
2. 皇居外苑

- 皇居外苑は、江戸城のたたずまいを残す濠や城門などの歴史的遺構を擁し、我が国を代表する象徴的空間であり、さらに皇居の緑と一体となった都心の貴重な水と緑の空間として親しまれ、海外からの観光客も含めて多くの方々が来訪している。

令和3年1月に、これからの皇居外苑の利用の在り方について取りまとめた報告書を取りまとめ、皇居外苑の国民公園としての歴史や周辺地域との関係、コロナ禍における役割等について確認するとともに、その整備状況や利用の現状と課題を整理した。その後、和田倉などの各施設の活用、周辺地域との相乗効果を生み出す取組などを行い、皇居外苑の価値を高めている。



和田倉噴水公園のライトアップ



石垣のライトアップ

3. 京都御苑

- 京都御苑は、京都市の中心部に位置する国民公園であり、京都御所、京都仙洞御所を囲み広がる敷地内には、巨樹巨木を含む様々な樹木をはじめ豊富な動植物が生息・生育し、都心部の広大な緑の空間として重要な役割を担っている。また、御所周辺の由緒ある景観を維持する庭園的機能はもちろん、散策や憩いの場、豊かな自然とのふれあいの場、そして市民スポーツの場など、地域と密着した多様な機能を備え、多くの利用者に親しまれている公園である。

令和4年5月には、「京都御苑情報館」、「近衛邸跡休憩所」、「清和院休憩所」と「桂宮邸跡」を新たにオープンし、来園者の利便性と快適性を高める取組を行っている。



京都御苑情報館



近衛邸跡休憩所

4. 新宿御苑

- 新宿御苑は、明治39年（1906年）に完成した皇室庭園で、プラタナス並木が美しい整形式庭園や広大な芝生とユリノキが高くそびえ、明るくのびやかな景観を呈している風景式庭園、伝統的な日本庭園を巧みに組み合わせており、明治を代表する近代西洋庭園ともいわれている。また、数少ないわが国の風景式庭園の名作とされている。

近年は、一層の魅力向上を図り来園者の満足度を高めるため、開園時間の延長、桜や菊、紅葉のライトアップ、民間カフェやキャッシュレス決済の導入及び早朝開園等を実施している。令和4年12月には、映像・音声を駆使し、新宿御苑の歴史・文化を詳細にわかりやすく展示する施設である「新宿御苑ミュージアム」を開館し、更なる魅力の向上や情報発信を進め、来園者の満足度を高める取組を行っている。



桜のライトアップ



新宿御苑ミュージアム